

歴史は未来の羅針盤



『近江日野の歴史』第六巻「民俗編」は、第一章「地域の暮らし」、第二章「人と家の暮らし」、第三章「四季の祈り」、第四章「日野の祭り」、第五章「伝承の文化」からなります。ただ今、役場・公民館などで好評発売中(税込四千円)です。

今回を含めると、五回にわたって行ってきました『近江日野の歴史』民俗編の内容紹介もこれで最後になります。今回は、民俗編最終章である第五章「伝承の文化」の概要をお知らせします。

日野町には、古くから伝えられてきた伝承文化(さまざまな遊びや生活にかかすことのできなかつた多くの歌、地域に根ざした物語など)が数多くあります。しかし、それらの多くは、高度経済成長期を境に、衰退の一途をたどっています。

失われつつある伝承文化を保存するため、過去に記された記録だけではなく、現在まで受け継いでこられた伝承者への聞き取り調査を行い、まとめあげたのが本章「伝承の文化」です。以下、節ごとの概要をご紹介します。

思い出の遊び

第一節は、現代のようなコンピュー

タゲーム機が登場する以前の子どもの遊びを数多く取り上げています。

昔の子どもたちは、季節に応じたさまざまな遊びを楽しんでいました。今のような秋の季節には、収穫した籾(もみ)を天日干しするために設けられた干場(ほしば)が絶好の遊び場となり、丸絵(メンコ)や石蹴り(ケンパ)などに興じていました。

このほかにも多種多様な遊びや昔のおもちゃを紙面の許す限り記しています。幼かった頃の遊びを心ゆくまで懐かしんでください。

受け継がれたわらべ歌

第二節で紹介しているのは、わらべ歌です。かつては、どこの町や村でも賑やかに歌われていたわらべ歌ですが、現状では消え去ろうとしています。

女の子の遊びの代表格であるまりつきやお手玉遊びに欠かせないわらべ歌には、「あんたがたごこや」

のような全国的に広まっている歌の他に、地域限定の歌が数多く伝わっています。

また、手まり歌やお手玉歌以外にも、さまざまなわらべ歌を収録しています。ぜひ、小さかった頃を思い出しながら口ずさんでみてください。

暮らしのなかの歌

第三節は、子守歌・仕事歌・祭り歌・祝い歌・行事歌・踊り歌といった、かつて生活のさまざまな場面で歌われていた歌を取り上げています。

各地区で催されている山の神祭りやオシヨウライ、地藏盆の歌などは、現在も歌い継がれている歌です。一方、機械化の進んだ現在では、田植え歌や草取り歌などは、歌われることがなくなり、死滅しようとしています。そんな忘れ去られようとしている歌の数々を記録しています。

このほか、日野町出身の作詞家細川雄太郎の作品の内、代表作を四作掲載しています。

語り継がれる物語

最後の第四節では、日野町に伝わる物語を紹介しています。

町内各地に残る石・樹木・塚にまつわる物語や天下の奇祭芋競べ祭の起源についての物語など、多種多様な物語が日野町には伝えられています。さらに、現在でも「智閑さん」の愛称で皆さんにお馴染みの蒲生貞秀の音羽城籠城戦をモチーフにした物語や、水・山、神社仏閣、動物にまつわる物語などが収録されています。その豊富さにきつと驚かれることでしょう。



▲物語の舞台の一つ、音羽城跡